



1 曾我部小学校の概要

(1) 地域の概要

場所： 亀岡市街地の約4km西

人口： 約3,800人

世帯数： 約1,600世帯

特徴

- ・法貴谷川、犬飼川、曾我谷川が流れている。
- ・大部分が田園地帯
- ・近くに、京都学園大学や亀岡市立運動公園などがある。



(2) 教育方針

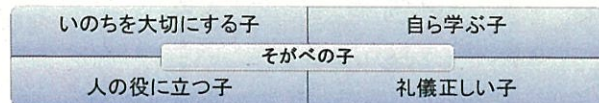
安心・安全 いのち輝く学校

<学校教育目標>

自ら学び、心をつなぎ、なかまと支え合う児童の育成



<めざす児童像>



(3) 児童数・教職員数等

<学級数・児童数>

表:1-1

学年	組	学年児童数		
		男	女	計
ひまわり (特別支援学級)	1			
	2	7	1	8
	3			
1年	1	12	13	25
2年	1	12	14	26
3年	1	9	14	23
4年	1	15	12	27
5年	1	13	8	21
6年	1	15	15	30
合	計	83	77	160

<教職員数>

表:1-2

職名	人数
校長	1
教頭	1
教諭	10
養護教諭	1
事務	1
用務	2
支援員等	5
	21

平成29年10月11日時点

(4) 学校を取り巻く環境

<校区の地形>

危険度大

土砂災害特別警戒区域

29ヶ所

土砂災害警戒区域

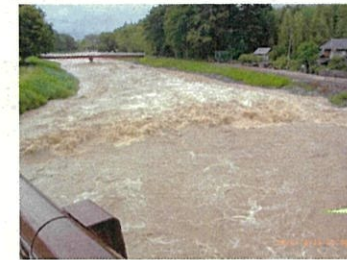
16ヶ所



土砂災害特別警戒区域の様子(2014年8月)



学ヶ丘地区の浸水土砂崩れの様子



犬飼川の増水の様子

<通学路の状況>



二期目の中心課題：取組の継続と児童の主体性

「学校経営とセーフスクール」5/14 (一期目からの継続職員)

オーナーシップ

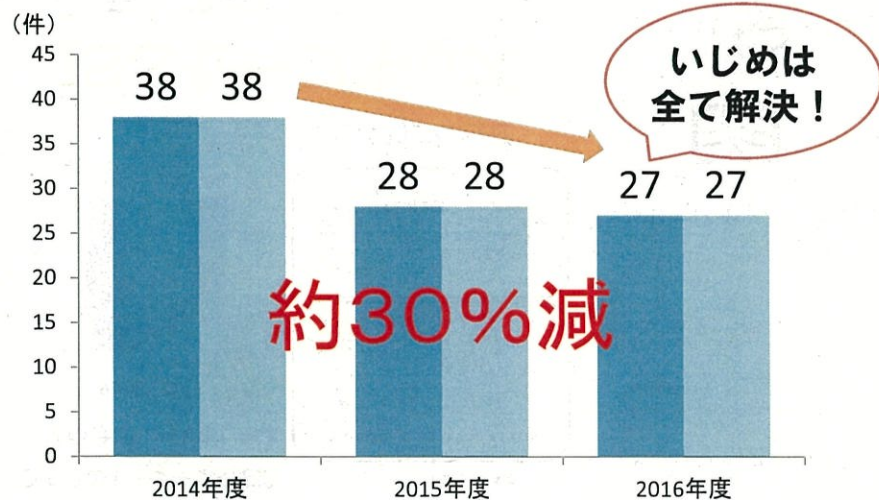
—我が事意識—



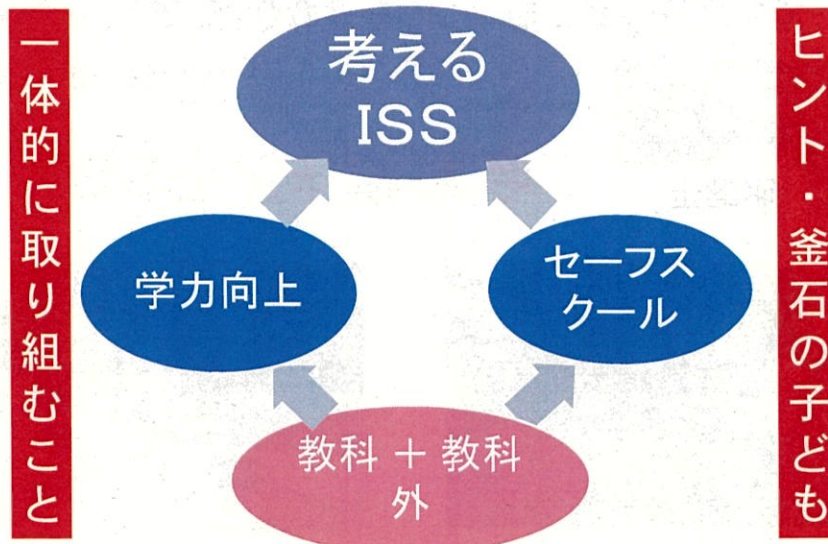
指標に沿った継続的な取組 + スペシャルなプログラム

いじめ調査3年間の推移

年間の認知件数(左)・解消件数(右) 図-1



少人数 二つのプロジェクトは困難



ISS避難訓練 1

- ・もし階段が使えなかったら
- ・もしガラスが散乱していたら



君ならどうする

ISS避難訓練 2



アニメ「釜石の奇跡」
釜石小学校の子ども
達に学ぶ

君たちならどうする

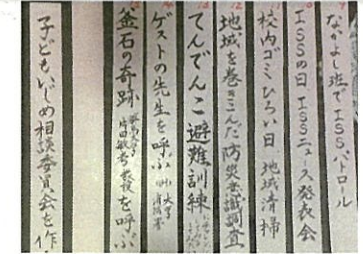
ISS授業：卒業生



ワークショップ
ISS子どもプランを
考える



ISSなかよし班掃除



2週間が終わると
ISS子どもパトロール
(安全点検)

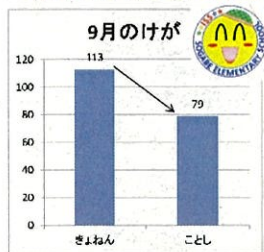
後輩に何を伝える

下級生にどう伝える

○ 9月のセーフキッズ結果

10/2 保健室

9月のけが、へりましたよ



みんながたてた目標の中で、一番多かったのは、廊下をはしらない(57人)でした。
他には、廊下を右側通行する、階段の一段とばしをしない、などおちついて生活しようと思った人が多かったように思います。

運動会の前だったので、走る練習でこけないようにするや頑立体操でふりせず、がんばるという目標をたてた人もいて、集中して練習することで、けがが減ったと思います。

ISSセーフキッズの取組

月	9月	結果
今月の目標の数もCOY	0	0
40P&V		

ISSセーフキッズ活動記録



福島校医



京都学園大学

ISSセーフキッズからのお知らせ

ISSセーフキッズ

毎月1週間

保健室で話を聞いた後

自分で決めて自分でチェックし考える



ISS子ども講演会

平和池



- ・医師: 手洗い・うがいの大切さ
- ・大学: 安全・安心な暮らしに必要な体力を知ろう
- ・校長: 曾我部町の安心を守り続けて来た昭和池

セーフネット ケース会議



← 家庭教育支援委員会
↓ 地域ネットワーク会議



周りから安心を支える
SSW・SC

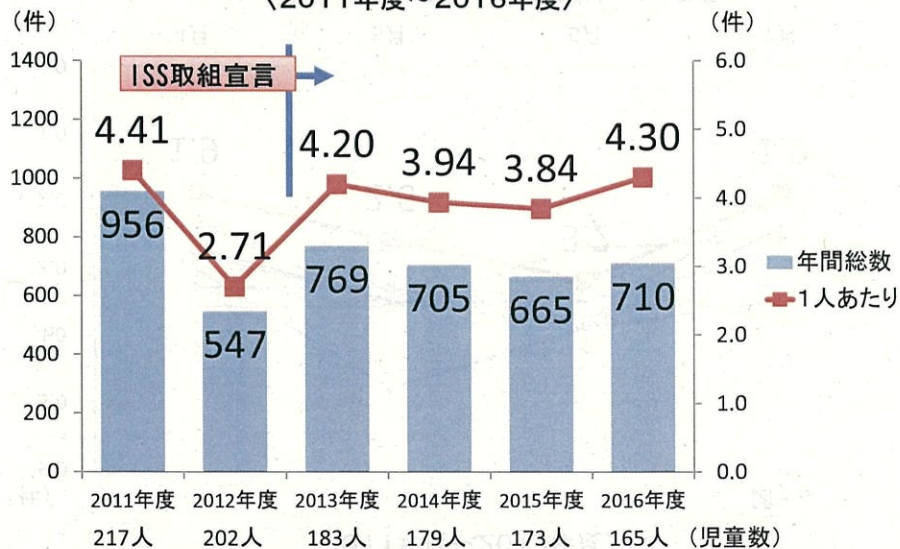
2 外傷によるけがの状況

～学校管理内で発生したもの～

〈2011年度～2016年度のデータより〉

けがの総数と1日あたりのけがの件数の推移
〈2011年度～2016年度〉

図-2

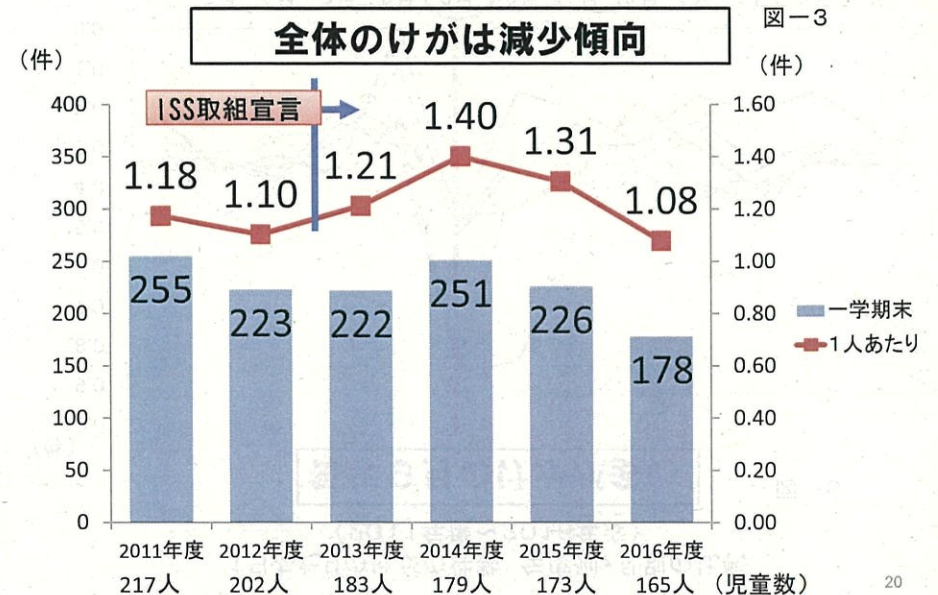


※2015年度からは、学校内及び学校行事で発生したけがの全てを記録。
(家庭での発生や継続して処置したものは含まず)

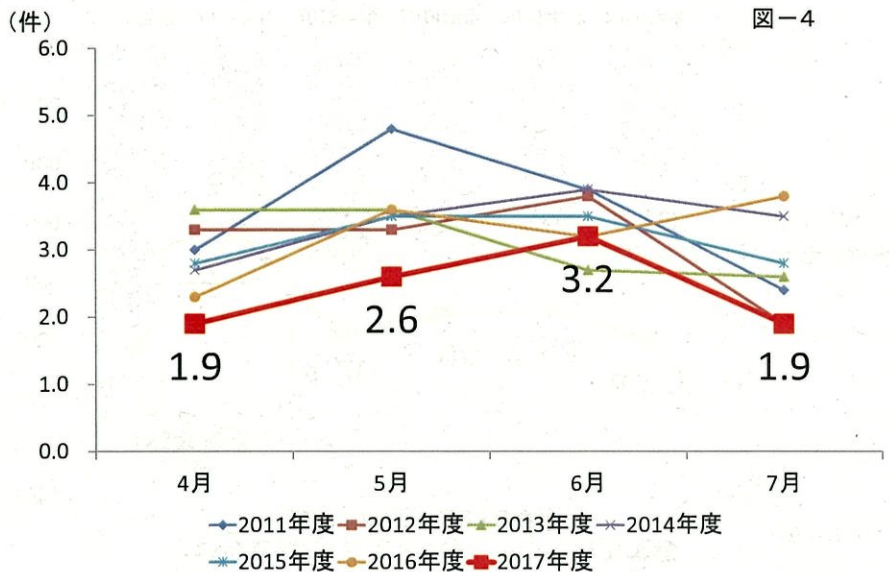
出典: 曾我部小学校けが記録

けがの総数と1日あたりのけがの件数の推移
〈1学期末の時点での年度推移〉

図-3

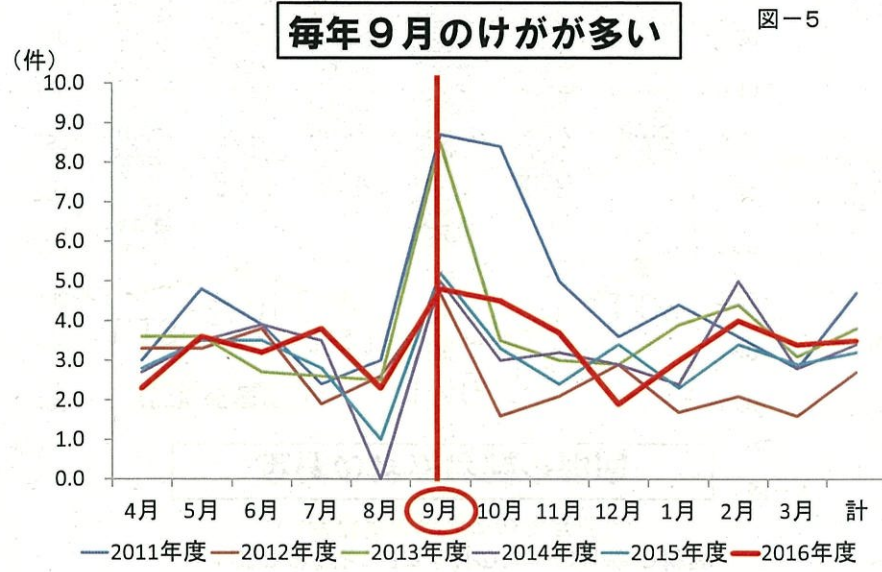


1日あたりのけがの件数(各年度1学期末時点での月別の比較)
 〈2011年度～2017年度〉



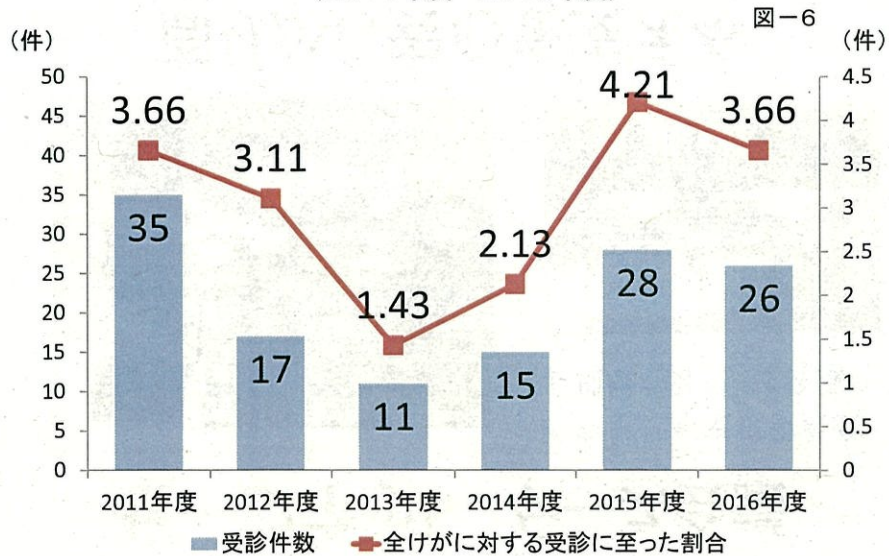
出典: 曾我部小学校けが記録 21

1日あたりのけがの件数 年度別・月別の比較
 〈2011年度～2016年度〉



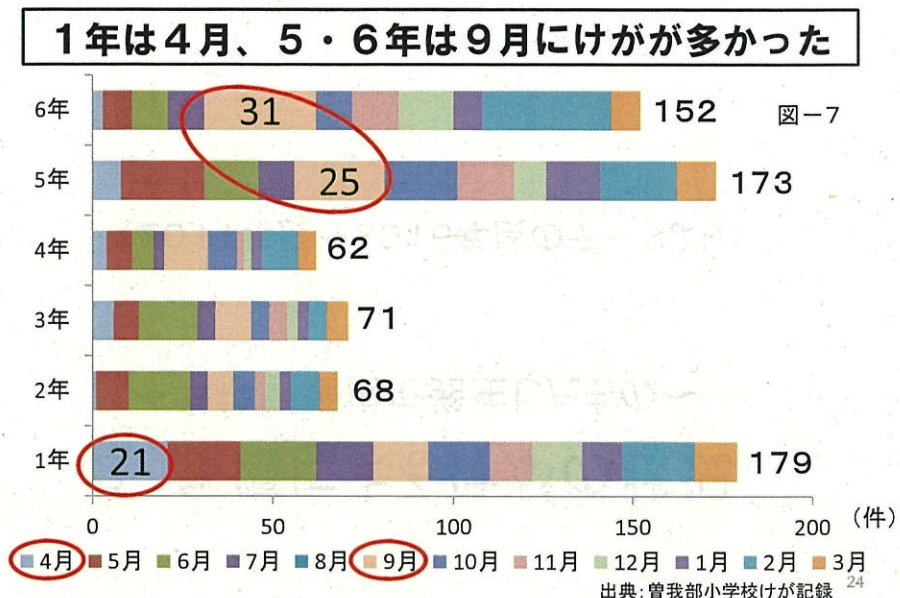
出典: 曾我部小学校けが記録 22

学校管理内でおきた事故のうち病院受診を要したもの
 〈2011年度～2016年度〉



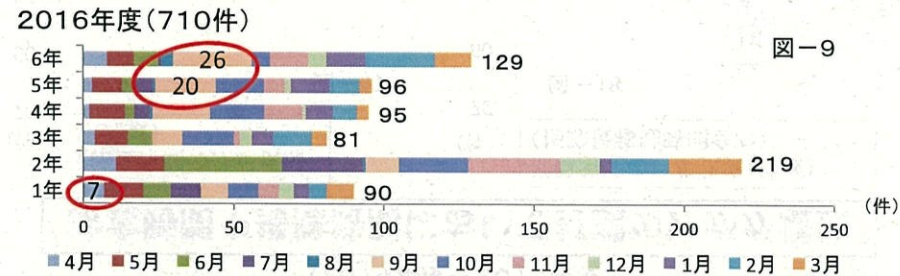
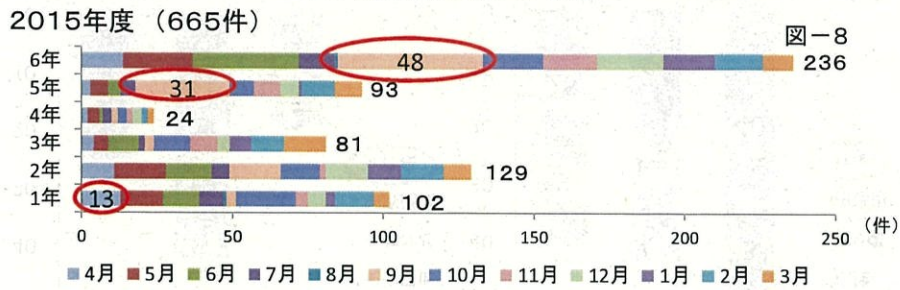
出典: 曾我部小学校けが記録 23

学年別月別のけがの件数
 (2014年度 705件)



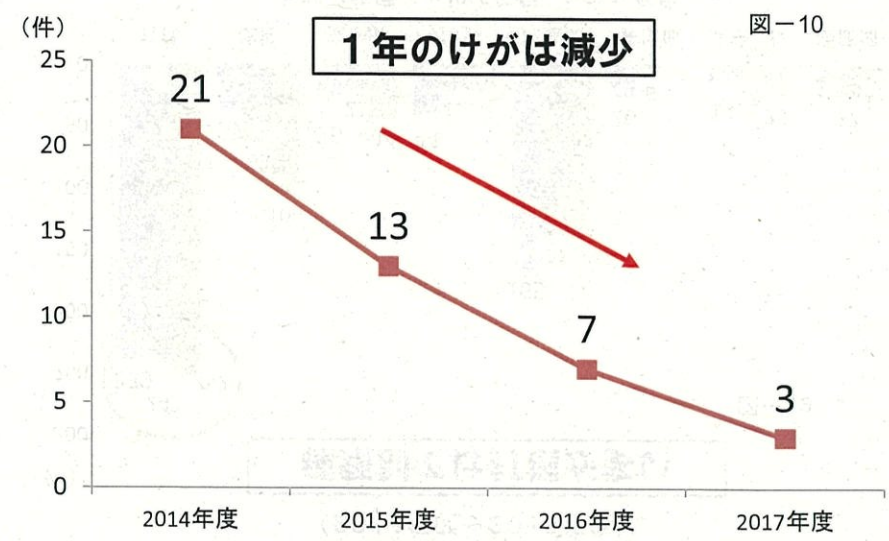
出典: 曾我部小学校けが記録 24

学年別月別のけがの件数 出典:曾我部小学校けが記録

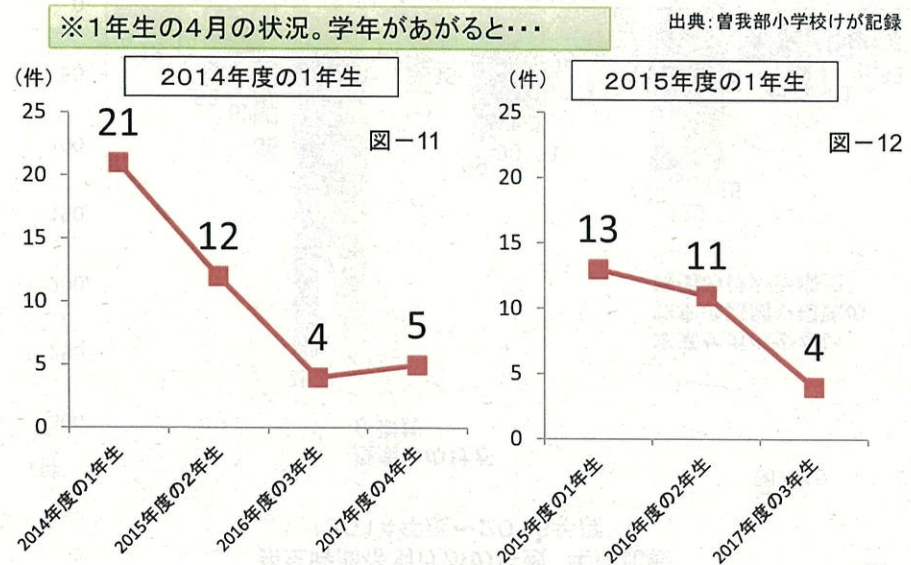


1年4月けがは減少、6年生の9月のケガが2015年度に増加

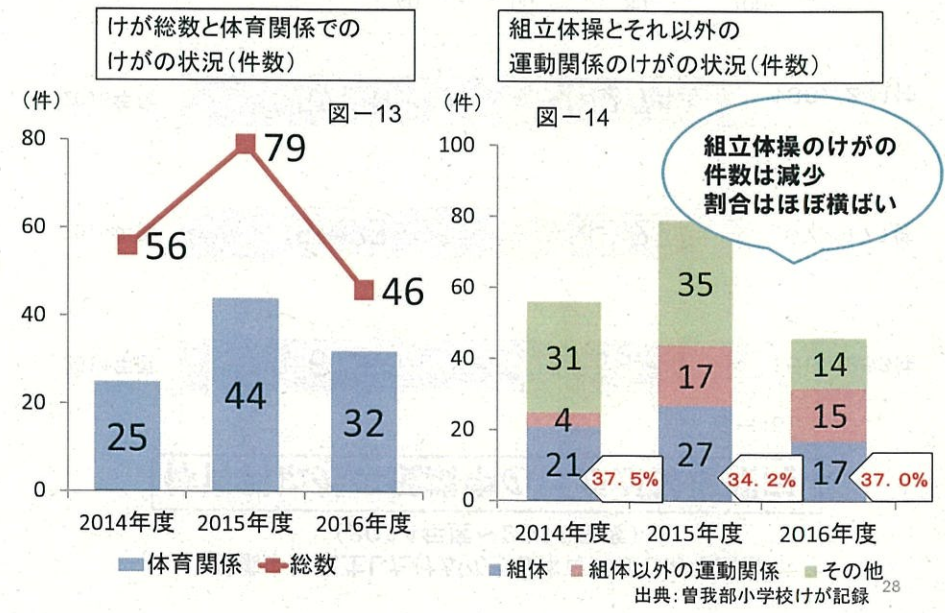
学年別年度別けがの件数の状況より
～ 1年生の4月のけが状況 ～



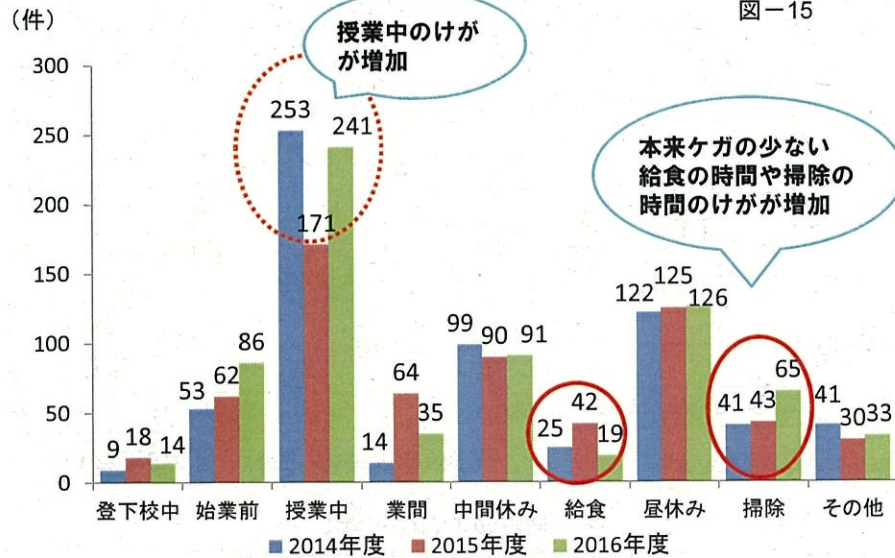
学年別年度別けがの件数の状況より
～ 1年生のけがの追跡 ～



学年別月別けがの件数の分析より
～ 5・6年生の9月のけが ～



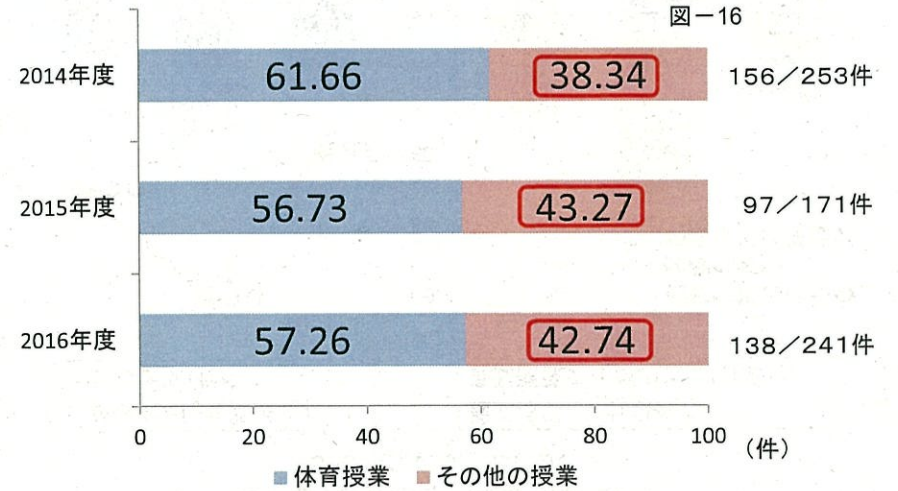
発生時間帯別けがの件数 年度比較
(2014年度～2016年度)



出典: 曾我部小学校けが記録 29

授業中に発生したけがのうち体育科がしめる割合
(2014年度～2016年度)

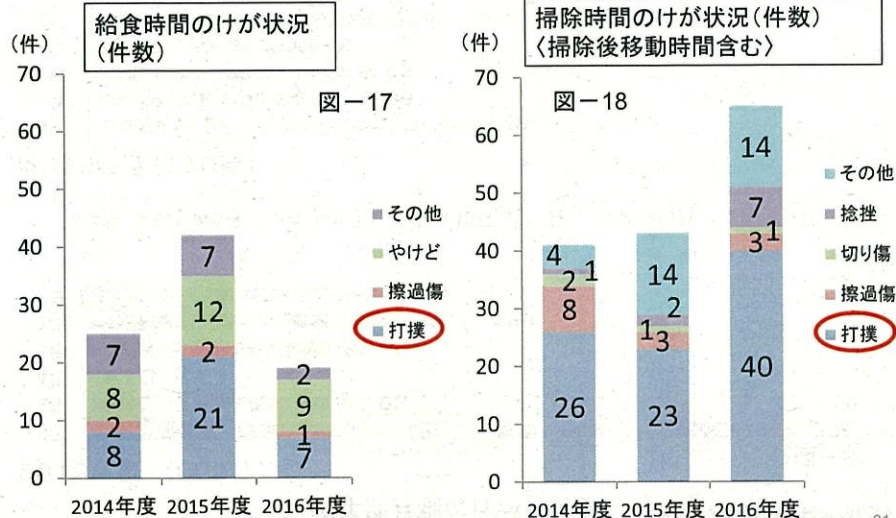
体育科以外の授業中のけがが微増傾向



出典: 曾我部小学校けが記録 30

給食時間と掃除時間に発生したけがの内訳
(2014年度～2016年度)

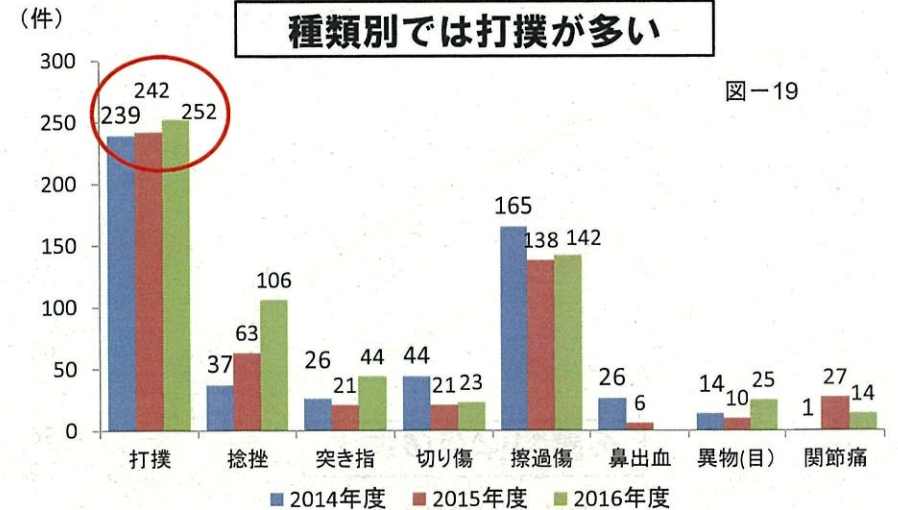
給食時間や掃除時間において打撲のけがが増加



出典: 曾我部小学校けが記録 31

けがの種類別件数
(2014年度～2016年度)

種類別では打撲が多い



※2014年度(705件) 2015年度(665件) 2016年度(710件)のうち、主なけがについて件数を示した。

出典: 曾我部小学校けが記録 32

場所別けがの件数
(2014年度～2016年度)

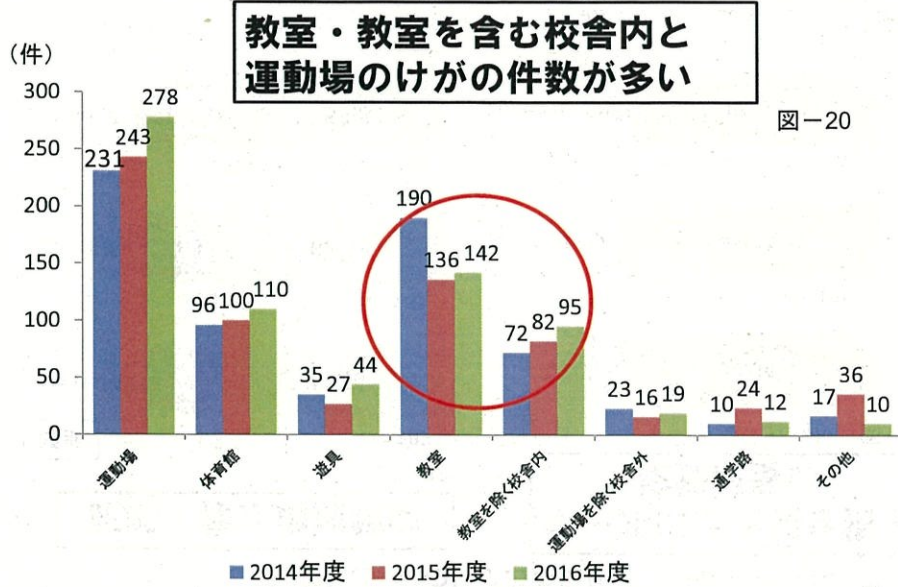


図-20

出典: 曾我部小学校けが記録 33

場所別けがの件数
(2014年度～2016年度)

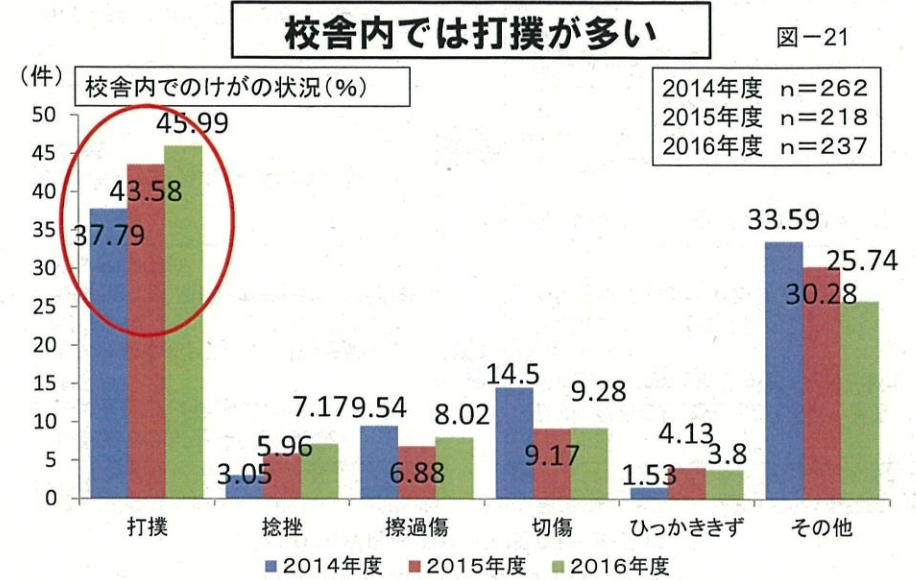


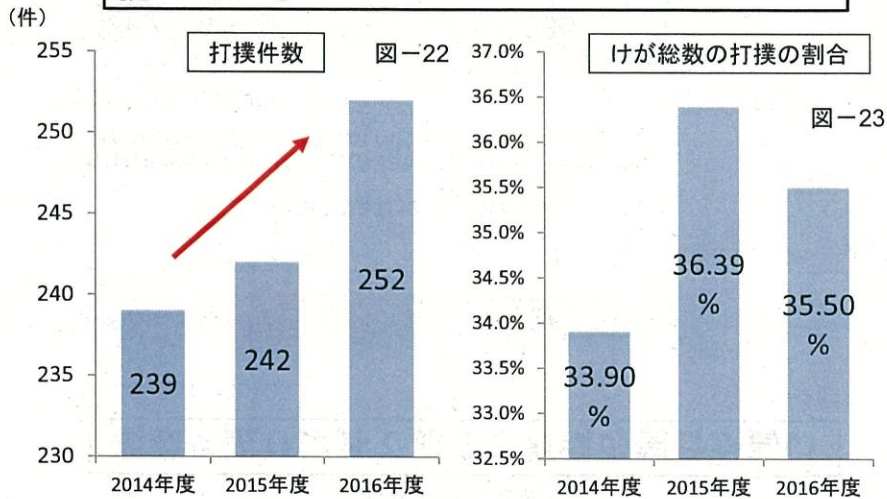
図-21

2014年度 n=262
2015年度 n=218
2016年度 n=237

出典: 曾我部小学校けが記録 34

打撲の起こる状況

児童数は微減の中でも、打撲が30%台が続いている



出典: 曾我部小学校けが記録 35

打撲が起こる状況

給食の時間と掃除の時間に打撲が多い傾向

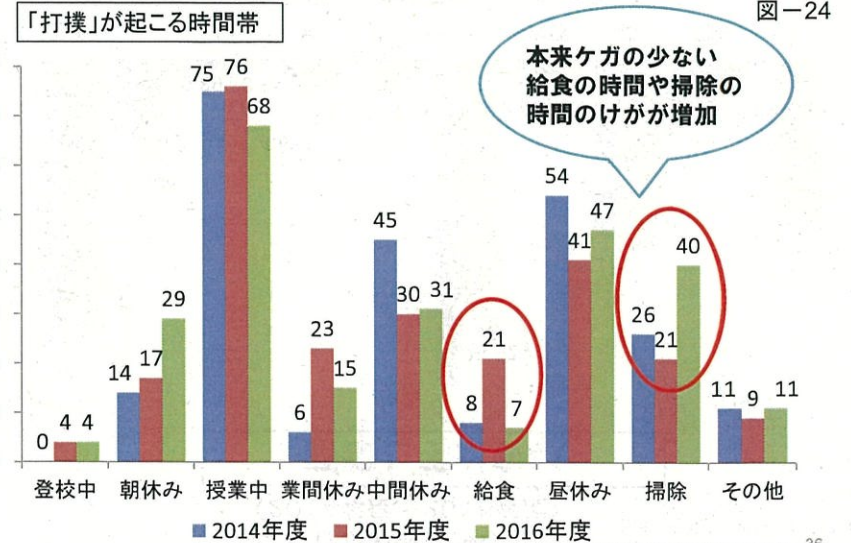


図-24

出典: 曾我部小学校けが記録 36

打撲が起こる場合

運動や遊び以外でおこる打撲の割合が高い



・打撲総数242件中、トラブルによるもの(14件)の割合は、5.79%
 ・打撲総数242件中、トラブルによるもの(14件)の割合は、5.79%



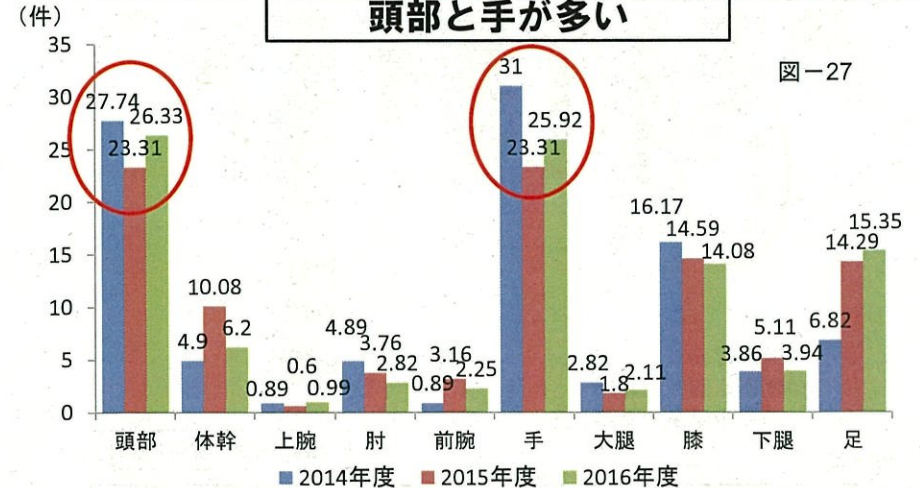
・打撲総数252件中、相手のあるけがは49件で、19.44%
 ・打撲総数252件中、トラブルによるもの(3件)の割合は、1.19%

出典:曾我部小学校けが記録 37

けがの部位(%)
 (2014年度~2016年度)

出典:曾我部小学校けが記録

頭部と手が多い



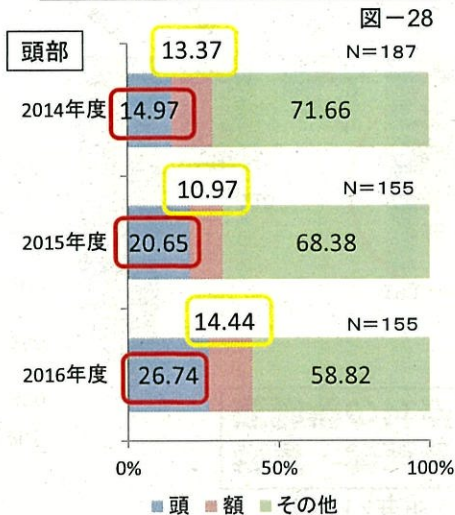
※頭部=頭、額、顔、目、頬、耳、鼻、口、歯、のど、顎
 ※体幹=首、肩、胸、腹、背中、腰、臀

2014年度 n=705件
 2015年度 n=665件
 2016年度 n=710件

38

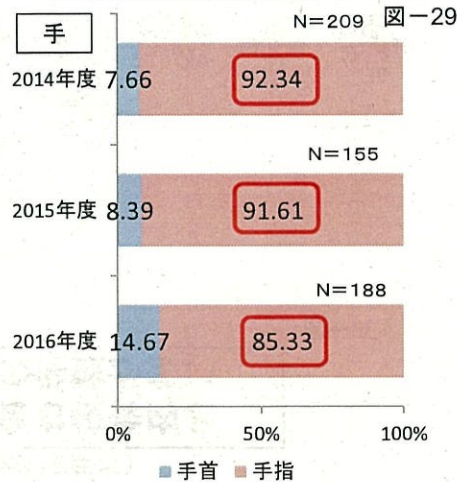
「頭部」と「手」のけがの内訳(%) 出典:曾我部小学校けが記録

頭部・額が増加傾向



※頭部=頭、額、顔、目、頬、耳、鼻、口、歯、のど、顎

ボールによる突き指・捻挫が多い



※手=手首、手指

39

けがの発生状況の分析と対策

(2014年度~2016年度のデータを元に)

データから見える課題	必要な予防対策
①頭部のけがを減らす(継続) ②教室及び校舎内のけがを減らす(継続) ③不注意から起こる「打撲」を減らす(新規) ④「給食」と「掃除」の時間帯のケガを減らす(新規)	<ul style="list-style-type: none"> ・周りを見ること(感じる)ができる ・落ち着いて学校生活がおくることができる ・転倒しにくい体をつくる ・姿勢を保つことができる
⑤1年生の4月のけがを増やさない(継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境や設備についての安全指導 ・休憩時間の遊び方や学校生活のルール等の生活指導 ・児童一人一人の見守り
⑥5・6年生の9月のけがの発生を抑える(継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・組立体操で取り組む技と指導方法の検討 ・他の競技に備えて、体育科の学習をすすめる ・体幹強化の取組継続

3 8つの指標に基づいた取組

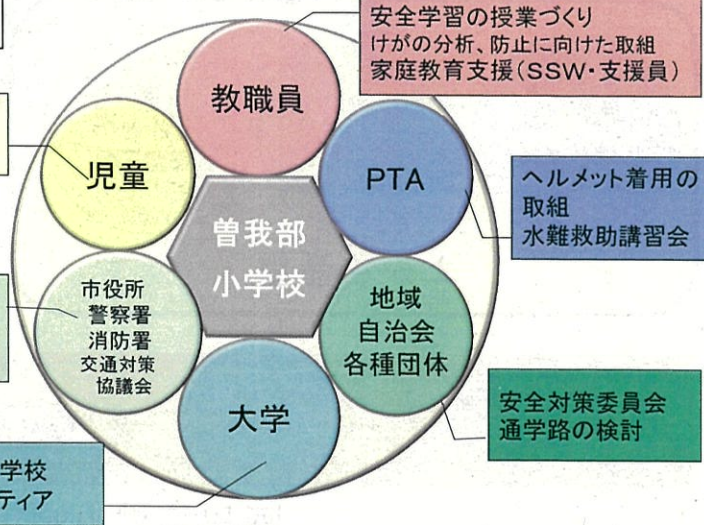
指標1 教師・生徒・事務・保護者等の協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営基盤が整備されている。

取組の協働体制

ISS委員会活動
各クラスの取組

自転車運転免許
交通安全、防犯の
指導

効果のある学校
学生ボランティア



指標1 教職員の協働体制

研究推進としての位置づけ

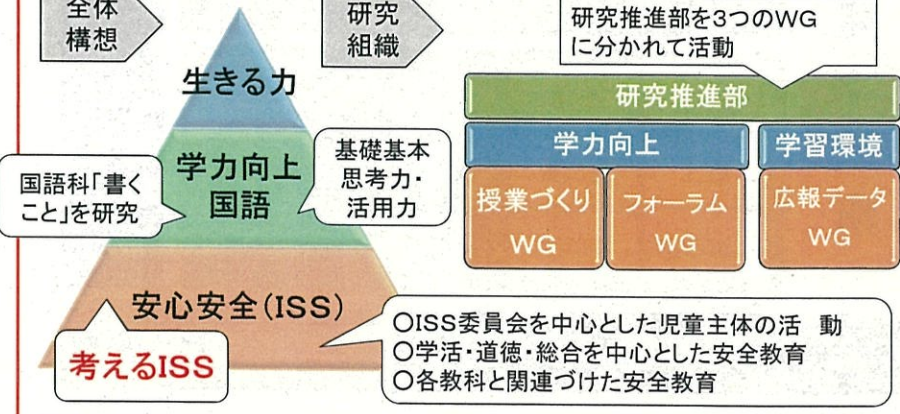
平成29年度
研究主題

安心安全な教育環境の中で、命の尊重を基盤に学力の向上を図り、生きる力を育む

全体
構想

研究
組織

研究推進部を3つのWG
に分かれて活動



安心安全な学校づくり⇒すべての学校教育の基盤

指標1 PTAの協働体制

あいさつ運動



登校の仕方



掃除の仕方



中部保育所の園児に

学校での
ISSの取組紹介

指標1 市役所・警察署・消防署・交通対策協議会の協働体制

取組の
継続

自転車免許証取
得の取組

安全教室



自治防災課よりセーフコミュニティ
を学ぶ

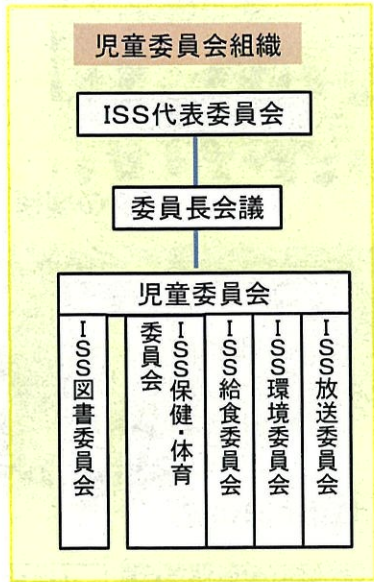


運転免許証 更新証



指標1

児童の協働体制



委員会	活動内容
ISS代表委員会	・活動の原案作成 ・ISSの広報活動 ・ISS委員会活動の計画、児童集会でのISS活動(憲章、歌) ・いじめ防止フォーラムの企画・運営 ・異年齢集団活動(なかよし班活動・ISS全校ウォークラリー)の企画・運営等
図書委員会	ISS図書の管理・コーナー作り
保健・体育委員会	校内のけがに関わる掲示等
給食委員会	・給食献立の放送・栄養黑板 ・後かたづけの点検
環境委員会	花作り、エコキャップ、プルタブ、ペットボトル回収、地域へのプラントー配布
放送委員会	ISSの歌、ISSに関わる各委員会活動の広報

児童の取組

ISS児童委員会



なかよし班活動



安全マップづくり



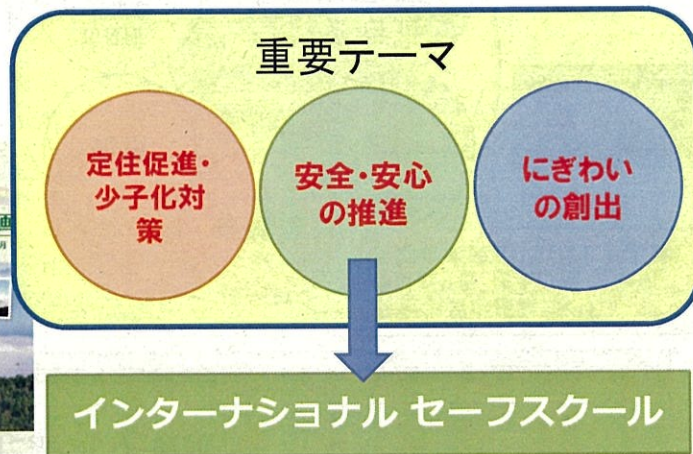
地域の安全を見つけて



指標2

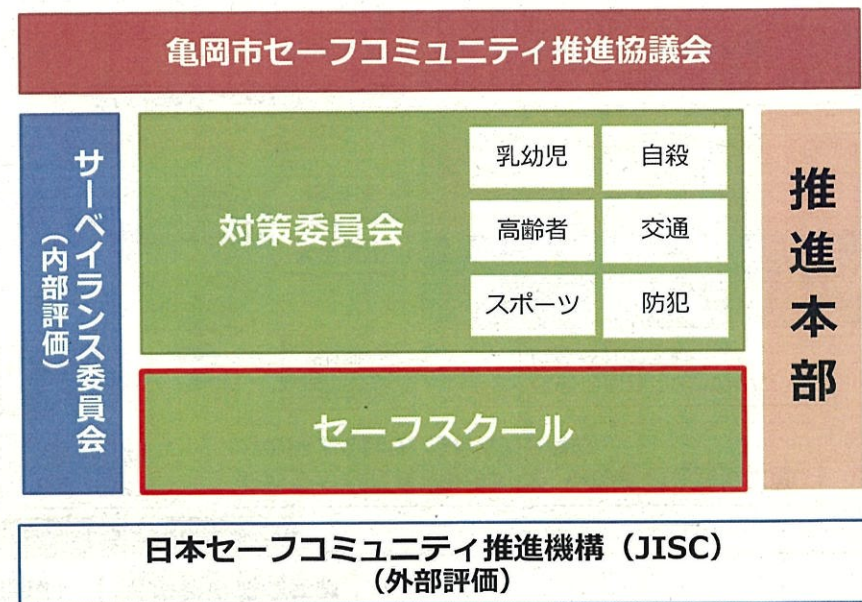
亀岡市総合計画

水・緑・文化が織りなす 笑顔と共生のまち かめおか
～セーフコミュニティの推進とにぎわいのまちづくり～



指標2

セーフスクールの推進体制



指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

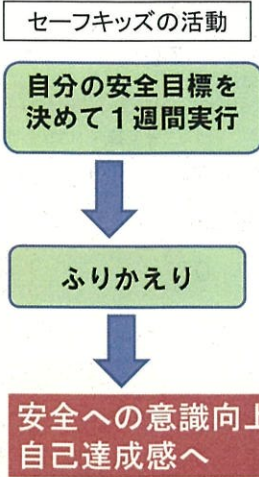
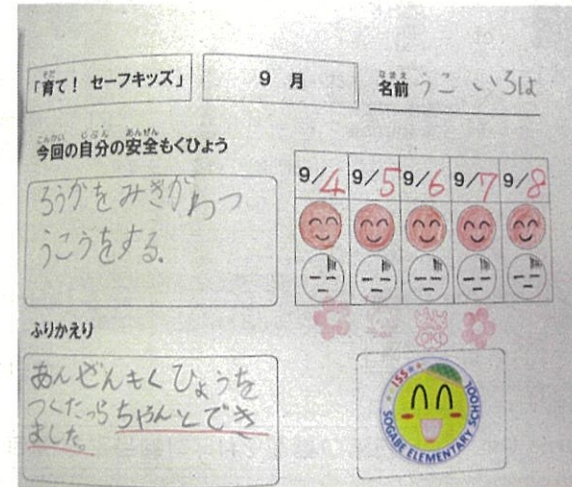
表:3-1

	児童	教員	保護者・地域	
学校内	安全学習	安全教育年間指導計画の作成	救急救命法講習会	
	なかよし班活動	安全学習の教材研究		
	ISS委員会活動			
	児童集会活動(各委員会からのISSの取組報告・提案等)			
	週ごとのISS目標の設定(全校目標)			
	ISS考える避難訓練			
	交通安全教室(安全な登下校)			
	SSWを中心としたチーム学校の組織づくり(支援員・地域ネットワーク)			
	いじめ防止フォーラム			
	ISSに対する意識向上の取組(ISS憲章、ISSの歌、シンボルマーク、育てセーフキッズマン)			
	校庭	安全学習		
		ISS委員会活動(ISSの取組)		
ISS考える避難訓練				
交通安全教室(安全な歩行・正しい自転車の乗り方・自転車運転免許取得の取組)				
自転車ヘルメット着用運動				
花の栽培活動				
通学路	自転車ヘルメット着用運動			
	地域見守り活動			
	登校指導・下校パトロール			
学区域	安全学習			
	花の栽培活動(校区内の施設にプランターを配る)			
	自転車ヘルメット着用の取組			
	ISSニュースの発行			
	地域見守り活動			
		地域の危険箇所確認		

49

指標3 ISSに対する意識向上

育て！セーフキッズ



50

指標3 ISS避難訓練



51

指標4 ハイリスクのグループ・環境および弱者グループを対象としたプログラムがある

対象①	特別支援学級(ひまわり3組 車いすを使用)児童に対する対応
対策内容	(1)登下校の支援 (2)雨の日の支援 (3)協力学級における支援 (4)全校児童のかかわり (5)階段昇降の支援



52

指標4

対象②	土砂災害等、大規模な災害に備えた対応
対策内容	(1)避難訓練の実施 (2)安全マップやハザードマップの掲示 (3)地域の災害学習(5年生の総合学習や安全学習) (4)安全な登下校に対する対応

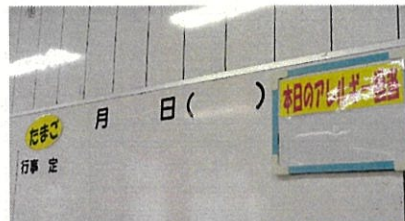
災害学習資料



ハザードマップ 53

指標4

アレルギー児童への対応



全職員が確認できるようにボードに提示



個別対応ファイル



お弁当ケース

指標4

新規

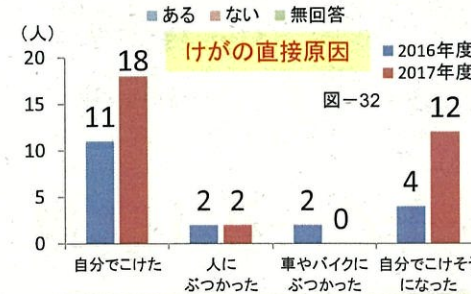
対象③	アレルギー児童への対応
対策内容	(1)毎朝、児童自らお弁当を職員室へ持ってくる 職員は必ず名前を確認し個人ケースに入れる。 (2)給食時の対応 複数の教師が役割分担し教室で児童の支援をする。 (3)全校児童の対応 食物アレルギーについての正しい理解を指導する。 給食時間の過ごし方や後片づけ等の指導を徹底し実施する。 (4)保護者の対応 食物アレルギーの児童の対応を説明したり、学校での取組を話したりして、学校給食に対しての保護者の理解と認識を深める。 (5)職員の共通確認 アレルギー児童の対応ノートを作成し研修や共通確認を実施している。

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

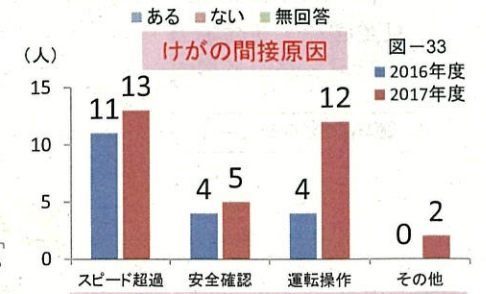
自転車走行時における児童の実態

出典: 2016年度曾我部小学校学校生活アンケート

自転車走行中に危険な目に合い、ケガをしたことがあるか

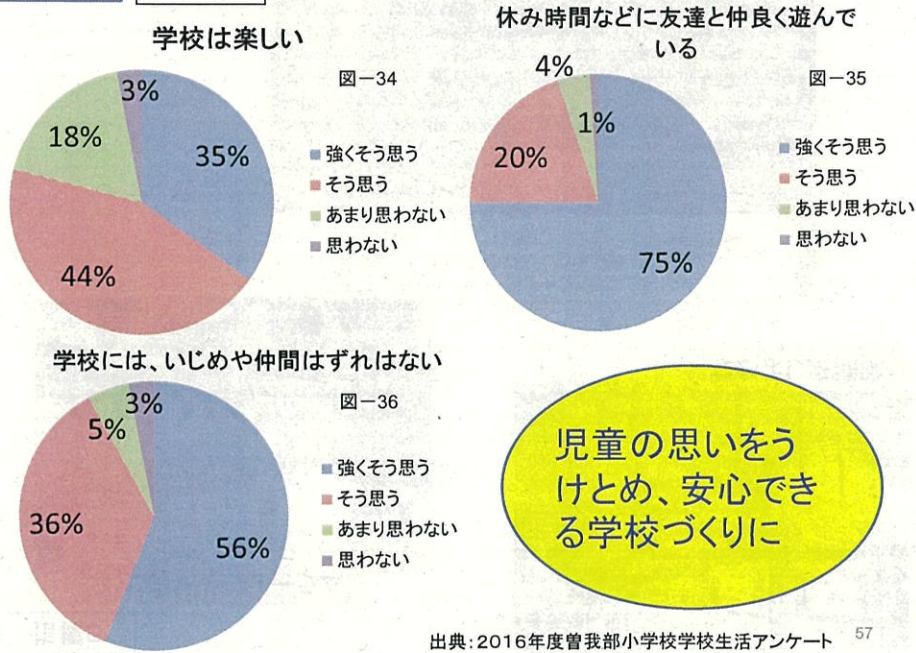


自分自身の原因がけがに繋がっている



自転車のスピードと運転技術が原因

指標5 心の健康



指標5

分析	ベースとなるデータ	明らかになった予防対象	課題
分析Ⅰ ○1年生4月のけが	図-10、図-11 図-12	1年児童	①自分の体をしっかり支える力の育成
○5・6年生の9月のけが	図-13、図-14 図-15	5・6年児童	②危険を予測する力の育成
分析Ⅱ ○けがの部位別件数	図-27、図-28	全校児童 頭部のけが	③ルールを守る意識
分析Ⅲ ○種類別件数	図-19	全校児童の打撲	④保幼少の円滑な連携
分析Ⅳ ○自転車走行時のけが	図-31	全校児童 自転車の運転技能	⑤周りの状況を見る感じる力の育成
分析Ⅴ ○心の健康	図-34、図-35 図-36	全校児童の人間関係	⑥心の育成
			⑦自転車の運転技術・安全意識の育成

58

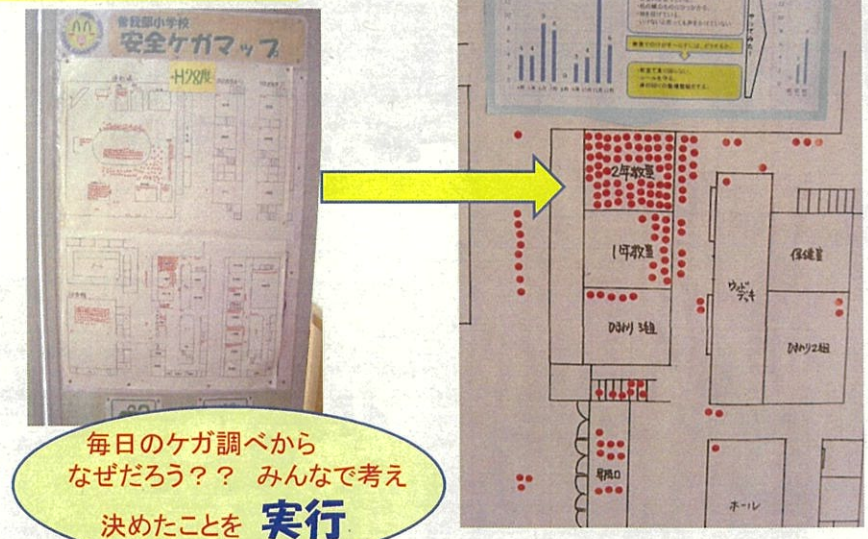
指標5 重点取組

予防対象	課題	対策
校内におけるケガ	危険予測・回避能力の育成 ②③④⑤	(1)ケガマップの作成 (2)毎日のケガ調べ (3)校舎内外の安全点検 (4)安全学習 (5)食物アレルギー対策 (6)セーフキッズの取組 (7)外遊びの取組 眼の体操 (8)保・幼・小の連携
	体幹の強化 ①	(9)体育における体幹強化の指導 (10)掃除等、日常生活における体幹を意識した指導 (11)姿勢を正す、キャッチ・レッド
心の育成	心の育成 ⑥	(12)いじめ防止フォーラムの開催 (13)なかよし班活動 なかよし班掃除 (14)訪問型家庭教育支援事業(SSW・SCの配置)
自転車による交通事故防止	技能・意識の向上 ⑦	(15)自転車免許・交通安全免許の取組 (16)交通安全教室 (17)安全学習 (18)ヘルメット着用の取組

59

指標5

重点取組の中で・・・



指標5 地域の安全たんけん！はっけん！！地域の安全アイテム！

気付いてる？

自分たちの通学路の中で
自分たちの地域の中で

安全にかかわるもの・こと
安全につながっていること



指標5

体育における体幹強化指導(6年生が1年生へ)



姿勢を正す、キャッチ・レッド



指標5

いじめ防止フォーラム



なかよし班掃除



みんな なかよくなるう カード

指標5



交通安全教室(中部保育所と一緒に)



自転車免許・交通安全免許の取組

学校前の横断歩道で実際に実践

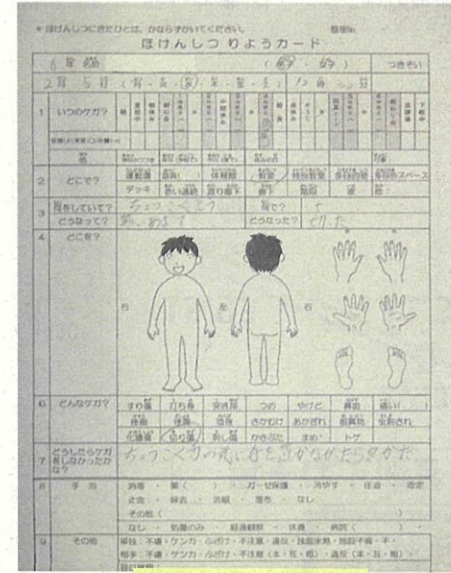


曾我部小の自転車免許更新証

指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある。

分類	ケガの種類	記録方法	頻度
からだのけが	軽微なものを含むけが 通院を要しないけが (校内におけるけが記録)	保健室利用カードを使って、けがの情報を収集し、統計処理を行う。	毎日データ入力し、週ごと、月ごとに分析
	通院を要するけが (スポーツ振興センター記録)	学校管理下におけるけがについては、災害医療費請求をするために、市教育委員会に記録を提出し、日本スポーツ振興センターへ申請を行う。	月ごとに集計
心のけが	いじめにつながる訴えや事案の件数	全児童を対象に、いじめアンケート調査と児童アンケート調査を行う。	年間2回(児童アンケート) いじめアンケート(每学期)

指標6



児童記入用カード



指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

対策	短・中期的成果の指標	長期的成果の指標
課題: 危険予測・回避能力の育成	指標: ケガの発生要因・改善策の理解 ○児童アンケート ・対象: 全児童 ・回数: 年間1~2回 指標: ルールを守る意識 ○セーフキッズ表 ・対象: 全児童 ・回数: 一週間(月毎)	○校内のケガの発生率 ・保健室データ
課題: 体幹の強化	指標: 体力の向上 ○体力テストの結果 ・対象: 全校 ・回数: 年1回	
課題: 心の育成	指標: 良好な人間関係の構築 ○児童アンケート(学校生活) ○いじめアンケート	

指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

対策	短・中期的成果の指標	長期的成果の指標
課題: 技能・意識の向上	指標: 交通ルールの定着・運転技能 ○自転車運転免許証テスト ・対象: 4・5・6年 ・回数: 年1回 指標: ヘルメットの着用率 ○児童アンケート調査 ・対象: 全児童 ・回数: 1~2回	○自転車による事故の発生率

自転車事故防止

体力の状況

～【反復横跳び】と【上体起こし】について～

〈2014年度に3年生だった児童が、
2016年度に5年生になった結果より〉

反復横跳び(点)

男子は上向き、女子は伸び悩み

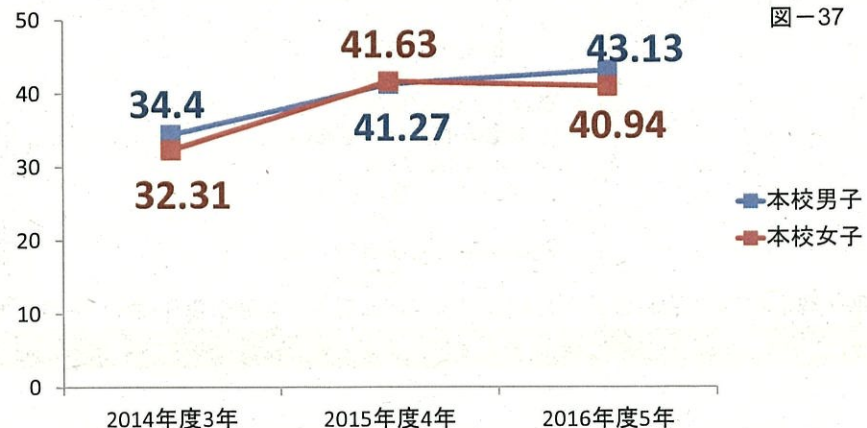


図-37

出典: 曾我部小学校けが記録 70

反復横跳び(点)

府の平均を上回っている

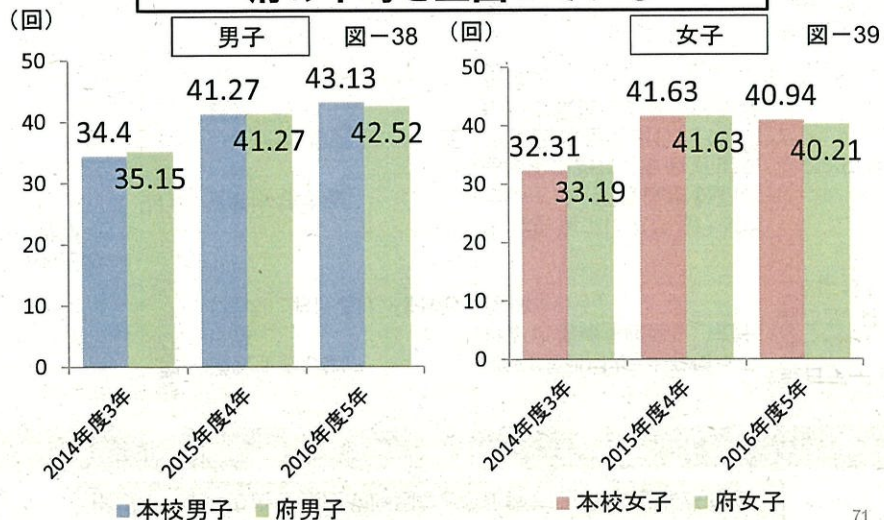


図-38

図-39

上体起こし(回)

男子は上向き、女子は伸び悩み

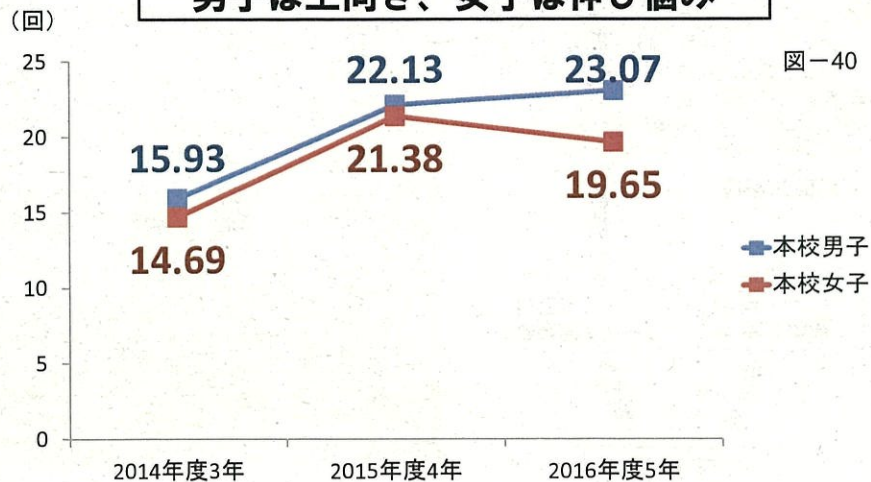
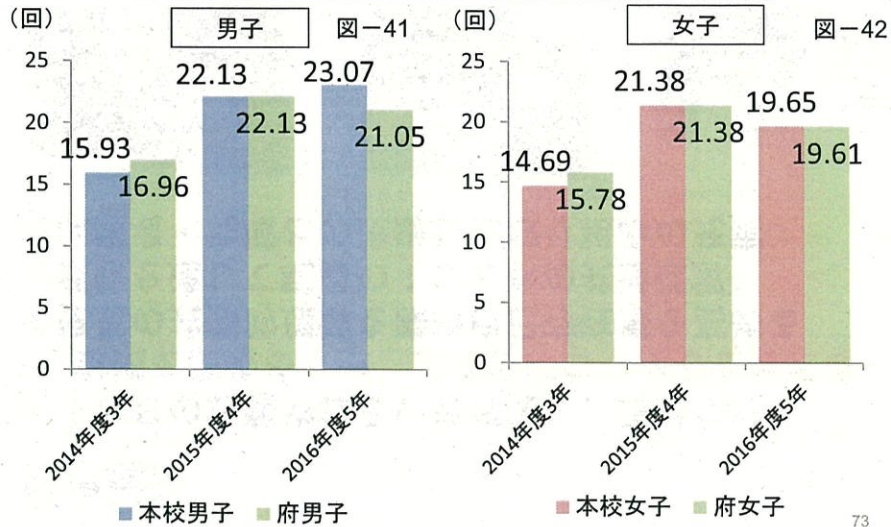


図-40

指標7

上体起こし(回)

府の平均を上回っている



指標7

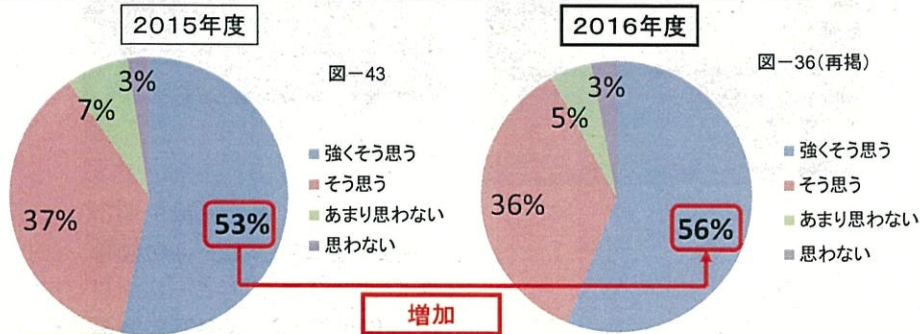
体力の状況

- ・体幹の強化は、転倒しにくい体を作ることにつながると考えている。
- ・【反復横跳び】と【上体起こし】を目安として選択し経過をみると、府平均を上回っている。
- ・体幹強化の継続とあわせて、姿勢を保つことを意識することで、生活のメリハリをつけ、落ち着きにもつなげたい

指標7

心の育成

学校には、いじめや仲間外れはない(児童アンケートより)



出典: 曾我部小学校学校生活アンケート

成果

いじめがないと回答した児童が増加

クラスや学校での友達関係が良好

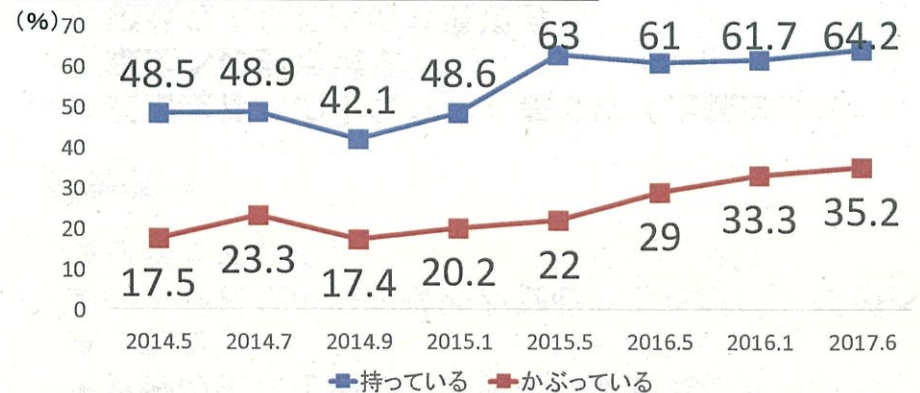
今後

安心できる学校
「いじめゼロ いじわるゼロ」に

指標7

自転車事故防止

ヘルメットの着用率(児童アンケートより)



出典: 曾我部小学校学校生活アンケート

成果

ヘルメットの所持率と着用率の増加

今後

着用することの意義
自分から意識する

指標8 国内・国際ネットワークへ継続的に参加すること

国内・国際ネットワークへの継続的な参加

- ・ 厚木市立清水小学校ISS再認証事前審査・現地審査
- ・ 豊島区立池袋本町小学校事前審査
- ・ 松原市立中央小学校事前審査
- ・ 豊島区立仰高小学校訪問
- ・ 日本セーフティプロモーション学会
- ・ 亀岡のセーフコミュニティ講座
- ・ 松原市視察研修



77

4 成果と今の課題、今後の展望

1 気づきや変化

- ★友達とのトラブルによるけがが減少した。
- ★自分の生活を振り、課題を意識する姿が見られた。
- ★一人ひとりの児童理解が安心できる学級・学校へつながっている。

2 課題

- ★児童全体へのISSの意識づけ（上級生から下級生への引き継ぎ）
- ★職員のISSへの共通理解
- ★保護者や地域との取組

78

3 今後

- ★ISSの意義やねらいを啓発し、意識づけ意識を高める → **主体性につながると考える**
- ★児童の共感的理解を深め自己存在感を高める
- ★研修を通して職員のISSへの共通理解
- ★保護者・地域との連携した取り組みの充実



本日はありがとうございました

79